

メガキャプス水溶液は、このような機能が確認されています。

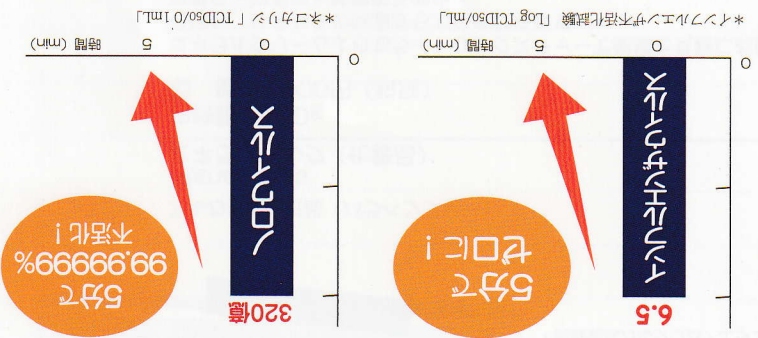
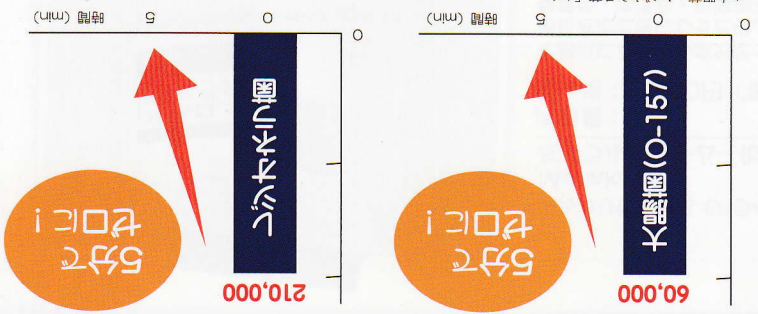
## 菌・ウイルスの除去試験結果

### 5分で大腸菌(0-157)・シオネラ菌の数がゼロに

社団法人日本食品研究センター 証明書 No.104082834-001号  
 精製水を用いて検体の0.2%/V懸濁液(シオネラは0.2、0.1及び0.05懸濁液W/V%)を調整し試験液とした。試験液に大腸菌(0-157)、シオネラ菌の菌液を添加し、撈拌しながら室温で作用させ、5、15、30及び60分間作用後に試験液の生菌数を測定した。結果は対象区では双方の菌が増殖したが、試験区では5分後に大腸菌・シオネラ菌ともに<10、<100となった。(検出せず)  
 あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

### 5分でインフルエンザ・ロタウイルスの数がゼロに

社団法人日本食品研究センター 証明書 No.207111920-001号  
 検体にインフルエンザウイルス浮遊液を添加、混合し、作用液とした。室温で作用させ、5、15、30及び60分後に作用液のウイルス感染性を測定した。結果は試験区では5分後に<1.5となった。(検出せず)  
 なお、あらかじめ予備試験を行い、ウイルス感染性の測定方法について検討した。  
 株式会社食環境衛生研究所 試験番号 15100630  
 試験に使用したネコカリシウイルス濃度は $10^{11}$ TCID<sub>50</sub>/0.1mLであった。対象区では試験開始後5分までの間にウイルス量の変化は見られなかった。試験区では開始後5分以上反応すること99.99999%以上減少となった。結果として、メガキャプスはネコカリシウイルスに有効的に不活化効果を確認された。



## アトピーの原因菌(黄色ブドウ球菌)の除去試験結果

慶應義塾大学医学部皮膚科学教室と米国 National Institutes of Health の永尾圭介博士(元慶應義塾大学医学部専任講師)との研究グループは、アトピー性皮膚炎における皮膚炎が、黄色ブドウ球菌などの異常細菌集によって引き起こされることを、アトピーを用いて解明しました。  
 本研究成果は2015年4月21日(米国東部時間)に米国科学雑誌「Immunity」電子版で発表されました。



社団法人日本食品研究センター 証明書 No.104082834-001号  
 精製水を用いて検体の0.2%/V懸濁液を調整し試験液とした。試験液に黄色ブドウ球菌の菌液を添加し、撈拌しながら室温で作用させ、5、15、30及び60分間作用後に試験液の生菌数を測定した。結果は対象区では双方の菌が増殖したが、試験区では5分後に<10となった。(検出せず)  
 あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

## 歯周病・虫歯菌の除去試験結果



社団法人日本食品研究センター 証明書 No.11121042001-02号  
 サレノ焼成カルシウムの水溶液にStreptococcus mutans菌又はStreptococcus sobrinus菌の菌液を採取後(以下、試験液という)、室温で保存し、1.3及び15分後に試験液中の生菌数を測定した。結果は対象区では双方の菌が増殖したが、Streptococcus mutans菌は1分後に<100となった。(検出せず) Streptococcus sobrinus菌は3分後に生菌の減少が見られた。15分後には殆ど見受けられなかった。  
 あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

### 1分で歯周病菌の数がゼロに

### 10分で虫歯原因菌の数がゼロに

- 安全に対する評価試験項目
- ウサギを用いる累積皮膚刺激性試験
  - ウサギを用いる眼刺激性試験
  - ウサギを用いる皮膚一次刺激性試験
  - ウサギを用いる急性経口毒性試験
  - モルモットを用いるMaximization 法感染試験
  - 細菌を用いる復帰突然変異試験
  - 哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験
  - 医薬部外品原料規格の酸化カルシウム適合
  - ヒトに対する皮膚刺激性試験
  - ヒトに対する肌質改善効果試験
- \* 全て適合結果を得ております。

製造販売元 朝田ケミカル株式会社

E-mail support@asada-chemical.co.jp

Web <https://asada-chemical.co.jp>

